

筑陽学園高校インターアクトクラブの活動が 済生会病院の全国広報誌に掲載されました



後列左から 当院の壁村哲平院長、筑陽学園高等学校教諭、むさし施設長。前列左から 当院職員 生徒さん4人、当院職員

〔福岡〕二日市病院

筑陽学園の 生徒から 感謝と激励の品

筑陽学園高等学校（太宰府市）で、奉仕活動を行なうインターアクトクラブの皆様から12月22日、タオル生地の手作りニット帽子と、応援・感謝のメッセージを書いた横断幕とポスターをいただきました。

「ニット帽子は全て手作り。裁縫が初めての生徒もあり、うまく縫えていないものもあるかもしれませんが……」と同伴の先生はご謙遜。しかし、どれも一生懸命作ってくれた温かさにあふれ、職員から「かわいい」と声があがる出来栄です。

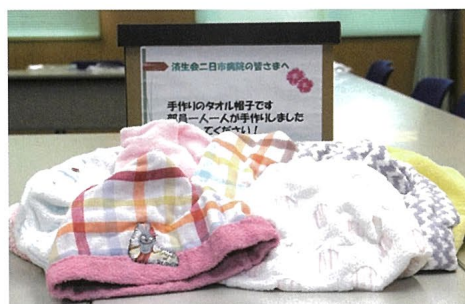
ニット帽子は入院患者さんと、関連施設の特養むさし苑に

『済生 2月号（通算1100号 記念号）』より、掲載ページを抜粋



横断幕とポスターは院内に掲示しました。職員一同、目にするたびに感謝の気持ちを思い起こし、それを励みに日々の仕事に取り組んでいます。

（総務課 久富大史）



紹介された取り組みは、インターアクト部員が手縫いしたタオル帽子です。「抗がん剤治療の副作用により、脱毛で苦しむがん患者さんを元気づけたい」という思いから部員全員が手作りし、昨年末に約40個を福岡県済生会二日市病院に届けました。

また、新型コロナウイルスの治療に尽力してくださっている、医療従事者の皆さんへの感謝の気持ちとして、ポスター（本校デザイン科生徒が作成）と、メッセージ入りの横断幕をインターアクト部員が作成してお届けいたしました。

これからも心を込めて感謝の思いを届けていきたいと思います。

筑陽学園高校から 満開のサクラのエール

福祉施設への訪問や通学路清掃などの奉仕活動を行なう、筑陽学園高等学校インターアクトクラブ（太宰府市）の生徒から、3月18日に応援や感謝のメッセージが詰まった大きな寄せ書きをいただきました。

同クラブからは昨年12月22日

にも、手作りのニット帽や横断幕・ポスターをいただいております。2度目のエールです。

コロナ禍の今春、職員はゆっくりサクラを観賞する機会がほとんどありませんでした。そんな中で届いた寄せ書きは、満開のサクラをモチーフにした癒やされるデザイン。職員は「わく、キレイ」と感嘆。早速院内に掲示し、花見の気分を味わうことができました。

寄せ書きの中央には「共助」の大きな文字があります。当院は地域医療支援病院として、地域の皆さんと共に助け合い、新型コロナウイルス感染拡大防止に、よりいっそう積極的に取り組んでいます。

（総務課 久富大史）



『済生 5月号』にも掲載されました。